練馬区立旭町小学校　学校だより　５月号　平成２７年４月３０日発行　校長　道山　正史

きらめく風

すすんで学ぶ子ども　心ゆたかな子ども　体をきたえる子ども

地獄と極楽の違い

校長　道山　正史

今年度も１ヶ月が過ぎました。そろそろ本来の子供たちの姿を、良い面でも、そうでない面でも、見ることができるようになってきています。校内を回っていると、授業中の校内は総じて落ち着いて穏やかな雰囲気です。縦割りの諸活動も始動し、6年生の頑張りがこれまで以上に目に見える形になってきました。

さて、月曜日の全校朝会で次のような話をし、人との関わりの中でしか人は生きることができない、だから、自分のことだけでなく、互いに協力し合うことが大切だということを子供たちにわかってほしいと思いました。有名な話なのでご存じの方も多いと思います。

ある人が地獄に行くと、大きなテーブルの上においしそうなごちそうがたくさん並べてありましたが、そのテーブルに向かっている人はみんなやせこけて恐ろしい形相をしています。どうしてだろうとよく見てみると、体がいすに縛りつけられていて、その手には長い箸を持っています。その長い箸で食べようとするので、長すぎてうまく口に入らないのです。

次に極楽に行くと、地獄と全く同じように、大きなテーブルにごちそうが所狭しとおいてあり、そのテーブルに向かっている人たちはいすに縛りつけられて長い箸をもっています。でもそこにいる人たちは豊かに太っていてとても幸せそうなのです。

よく見てみると、極楽の人たちは長い箸でごちそうを挟み、向かい側の人に「どうぞ」と差し出しているのです。すると向かい側の人は、今度は反対にごちそうを挟んで「はい、どうぞ」と向かい側の人に差し出すのです。お互いに「ありがとう、すみませんね」といって本当に幸せそうな顔をしています。実は地獄と極楽との違いは、自分が社会の中で他の人と関わって生きているということに気づいているかいないかなのです。

（「小学校 心のとびらを開く月曜講話」青木靖著 学事出版より）

自転車に乗りながらスマホを見たり、やりとりしたりしているとか、歩きながらスマホを見てぶつかりそうになるとか、電車の中でものを食べているとか、乗り物の中で化粧をしているとか、自分勝手で自己中心的な行いが社会の中で当たり前のようになってきていますが、どんなに便利であっても、互いを大切にし、協力し合うことの大切さは変わらないのです。こんな事をすると他の人がいやな気持ちになるかならないかを気にかけるということがいっそう忘れてはいけないことになってきているのだと思います。